

角田市
学力向上
ゆめプラン
2022

～未来を拓く資質・能力を
育成するために～

令和7年3月（一部修正）
角田市教育委員会

はじめに

「学び」って楽しい

教育長 永井 哲

平成23年度にスタートした角田市の学力向上推進計画（10年計画）の中期プラン（平成27年度から3年間）として策定されたのが、この「角田市学力向上ゆめプラン」です。当時、私は、教育委員会事務局の職員としてプランの策定に関わっていたこともあり、このたび、平成30年度の改訂を経て、再び本プランが生まれ変わったことを、大きな喜びとともに大変感慨深く受け止めているところです。

学力向上推進委員会委員の方々と最初のプラン策定を行っていた平成26年当時、「学力向上」は、「全国学力・学習状況調査の正答率を上げること」とほぼ同義語ととらえられており、自治体や教育委員会を挙げて「点数を伸ばせ」「順位を上げろ」の大合唱が全国に響き渡っていました。平均正答率で1位を独占した秋田に学べと全国の教育研究者や教員が秋田を訪れる「秋田詣で」という言葉が流行ったのもこの頃でした。もちろん、私もその「秋田詣で」を行った一人です。

そのような状況の中で産声を上げたこのプランでしたが、策定にあたって最も留意したことが当時の教育長の巻頭言に記されています。すなわち、「学力調査の結果は、学力を図る一つの側面に過ぎないものであり、数値だけを追い求めるものとならないようにすること。」です。その思いは今、色褪せるところか、ますます重要な視点となり、本プランの中にも引き継がれています。今後の課題として記された「今後、児童生徒が、主体的に授業に関われるような『楽しい』授業づくりに取り組んでいく必要があります。」という文言は、まさにその表れでしょう。

「教育とは、内発を誘発するための外発である」という言葉がありますが、教育の原点は、知的好奇心や向上心に火をつけることにあります。個別最適な学びも、協働的な学びも、一人一台のタブレットも、知的好奇心や向上心に火がついてこそ、その真価を発揮できるものでしょう。自分の成長、自己変革につながる学びは、本来楽しいものであるはずです。学力向上だって、テストの点数が上がればいいというものではなく、楽しさや学びに向かう力が担保されたものでなければなりません。というより、楽しさを感じたり、自ら学びに向かったり、成長しようとしたりすること自体もまた学力だということです。もちろん、口で言うほど簡単なことでないことは十分承知しています。でも、「子供たちは考えることを楽しんでいるか。」「子供たちは自らの興味に駆られて学びに向かっているか。」というような自問を、教師は決して忘れてはならないと思うのです。

これまでと変わることなく、本プランが、いわゆる学力テスト対策ではなく、真の学力を主体的に児童生徒に身に付けさせる手引きとなることを願っています。そして、本プランの趣旨を広く市民の皆様にも知っていただき、学校、家庭、地域、教育委員会が、総ぐるみで「楽しい」学びの環境づくりによる学力向上に取り組むことができれば、より大きな成果に結び付くに違いありません。

最後になりましたが、本プランの策定に御尽力いただいた学力向上推進委員の皆様、その他御協力いただいた関係各位に心より御礼を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

目次

第1章 プランの策定について

1 策定の趣旨	1
2 プランの位置付け	1
3 プランのコンセプト	1
4 計画の期間	1

第2章 角田市児童生徒の現状と課題

1 学力調査の結果から見た学力の現状	2
2 学習意欲、生活習慣等に関して	3
3 課題点のまとめ	4

第3章 プランの目指すもの

1 角田市学力向上ゆめプランの目標	5
-------------------	---

第4章 アクションプラン

A 各学校での取組	6
B 地域・家庭での取組	7
C 角田市教育委員会の取組	8～10



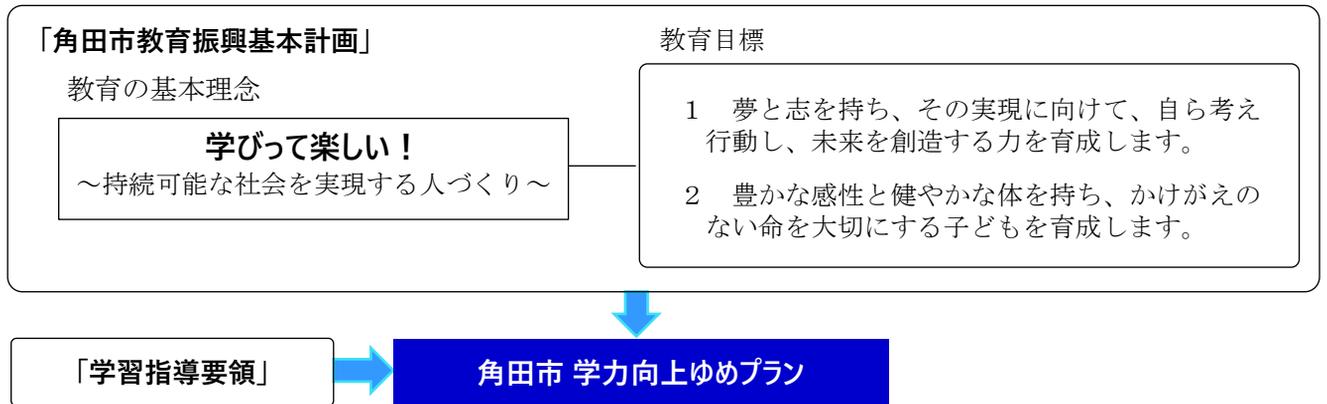
第1章 プランの策定について

1 策定の趣旨

本プランは、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの資質や能力を重視する新しい学力観にあって、角田市の子供たち一人一人が、自らのよさや可能性を発揮して様々な対象に進んでかかわり、自分の課題を見付け、主体的に考えたり、判断したり、表現したりして解決していくことができるようにするために、学校、家庭・地域、市教育委員会が取り組んでいただきたい事項を提言としてまとめたものです。

全国学力学習状況調査（小6，中3実施）や標準学力調査（小2～中2実施）の結果からは、角田市の児童生徒も様々な課題を抱えていることが分かります。本プランは、これらの課題を改善し、角田市の子供たちがこれからの未来を拓く資質・能力を身に付けることができるよう、本市の教育に関わる各主体が、子供たちの教育や学びについてそれぞれの役割を自覚し、連携・協働しながら取り組むための具体的な方向性を示します。

2 プランの位置付け

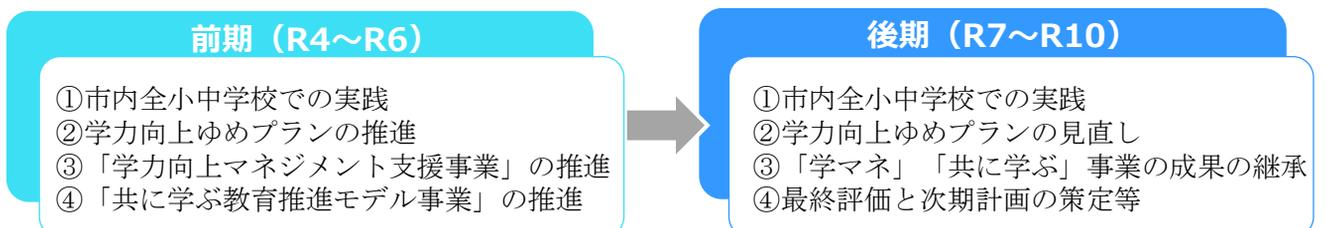


3 プランのコンセプト

- (1) 学習指導要領、角田市教育振興基本計画に則り、**学ぶことの楽しさを原動力に、「持続可能な社会を実現する人づくり」**を目指します。
- (2) **取組の主体**は「各学校」になります。このプランが各学校独自の取組を制限するものではありません。
- (3) 教師の授業力向上と児童生徒の学力向上、家庭・地域の教育力向上、学習環境の整備を進めるために、学校、家庭・地域、市教育委員会が後述する**アクションプラン**を**三本柱**として、それぞれが主体となり、かつ、連携・協働します。

4 計画の期間

令和4年度から令和6年度までの3年間を前期、令和7年度から令和10年度までの4年間を後期とし、次期学習指導要領の動向も踏まえながら、前期プランの成果と課題を基に、後期プランの見直し・修正を図ります。



第2章 角田市児童生徒の現状と課題

1 学力調査の結果から見た学力の現状

(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査（令和6年5月実施）

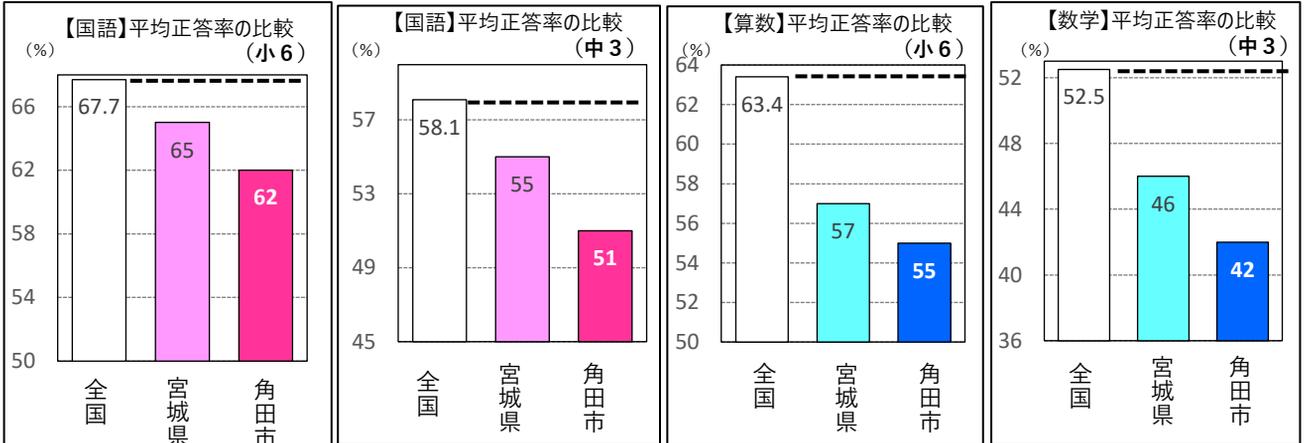


図1 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（※県平均は、仙台市を除いた平均値）

- 【国語】**
- ▲ 小学校は、全国平均正答率を5ポイント以上下回っています。
 - ▲ 中学校も、全国平均正答率を5ポイント以上下回っています。
 - ▲ 小・中ともに、「話すこと・聞くこと」に、全国平均との乖離が見られました。

- 【算数・数学】**
- ▲ 小学校は、全国平均正答率を5ポイント以上下回っています。
 - ▲ 中学校は、全国平均正答率を10ポイント以上下回っています。
 - ▲ 小学校では「数と計算・図形」、中学校では「数と式・図形」の領域において全国平均との大きな乖離が見られました。

(2) 標準学力調査（毎年12月実施）

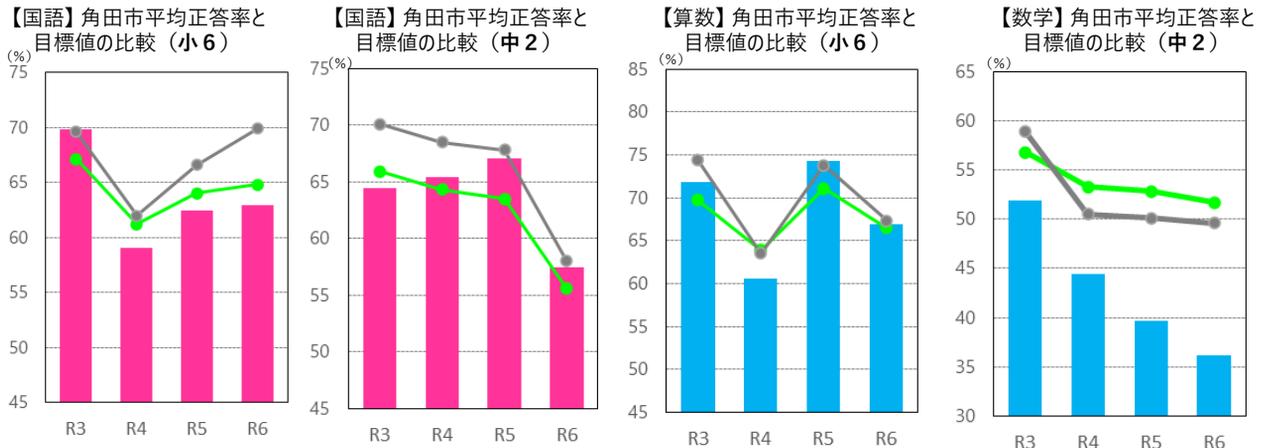
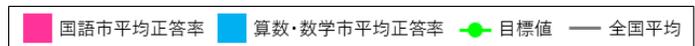


図2 標準学力調査国語、算数・数学の結果



- 【国語】**
- ▲ 小学校は、目標値を下回り、全国平均も5ポイント以上下回っています。
 - ◎ 中学校は、目標値^{※1}を上回り、全国平均とほぼ同等の結果になっています。

- 【算数】**
- ◎ 小学校は、目標値を上回り、全国平均とほぼ同等の結果になっています。
- 【数学】**
- ▲ 中学校は、目標値及び全国平均を10ポイント以上下回っています。

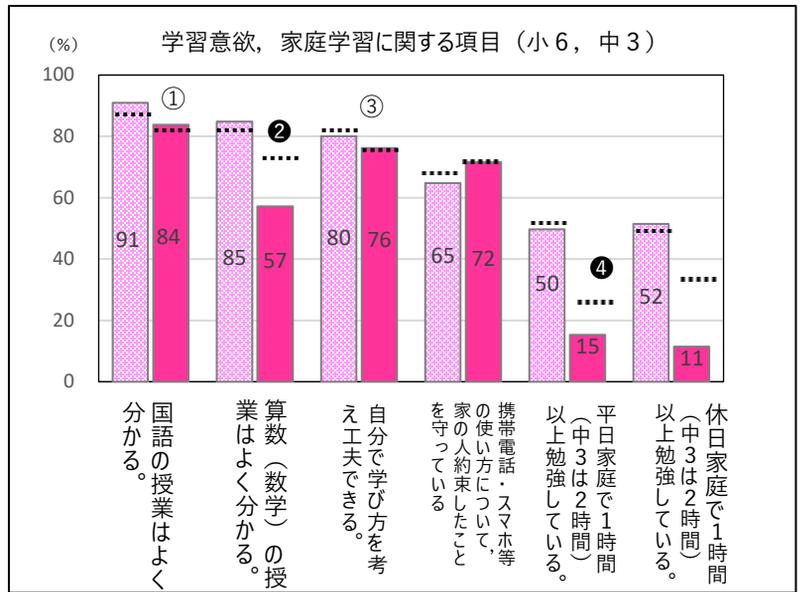
¹ 目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学習した場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもの。また、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正した数値。

2 学習意欲、生活習慣等に関して

(1) 全国学力・学習状況調査 (令和6年5月)

【学習意欲、家庭学習】

- (①) 「国語の授業が分かる」という児童生徒の割合が、全国水準を上回っています。
- ▲ (②) 「数学の授業が分かる」という生徒の割合が、全国水準を大きく下回っています。
- (③) 「自分で学び方を考え工夫できる」児童生徒の割合は全国水準と同等です。
- ▲ (④) 平日、休日ともに2時間以上家庭学習を行っている生徒の割合が、全国水準を大きく下回っています。



【生活習慣、自尊感情等】

- ▲ (⑤) 基本的な生活習慣(朝食、就寝時刻)の定着が、全国水準をやや下回っています。
- ▲ (⑥) 「将来の夢や、目標を持っている」と回答した生徒の割合が全国水準をやや下回っています。
- ▲ (⑦) 「自分にはよいところがある」と考えている児童生徒の割合が全国平均に近づき改善が見られます。
- ▲ (⑧) 「地域や社会への関心」に対する項目が、小学校で全国平均を下回っています。

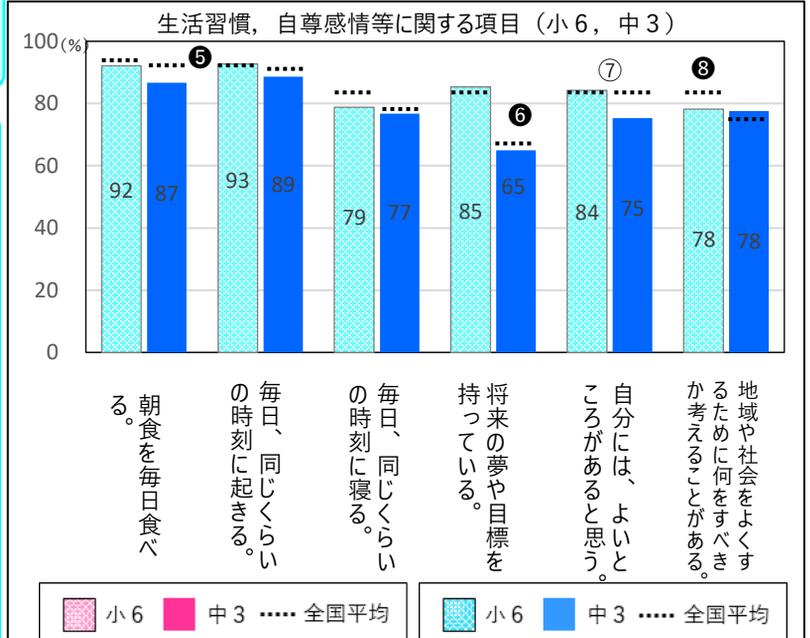


図3 令和6年度全国学力・学習状況調査 質問紙の結果

(2) 標準学力調査 (令和6年12月)

【家庭学習等】

- (①②) 中学校で、「自分で計画を立てて勉強していること」、小中ともに、「情報端末の学習への活用」が、全国水準を上回っています。
- ▲ (③④) 小中ともに、「勉強に辞書を利用している」「新聞記事を読んでいる」児童生徒の割合が全国水準を大きく下回っています。

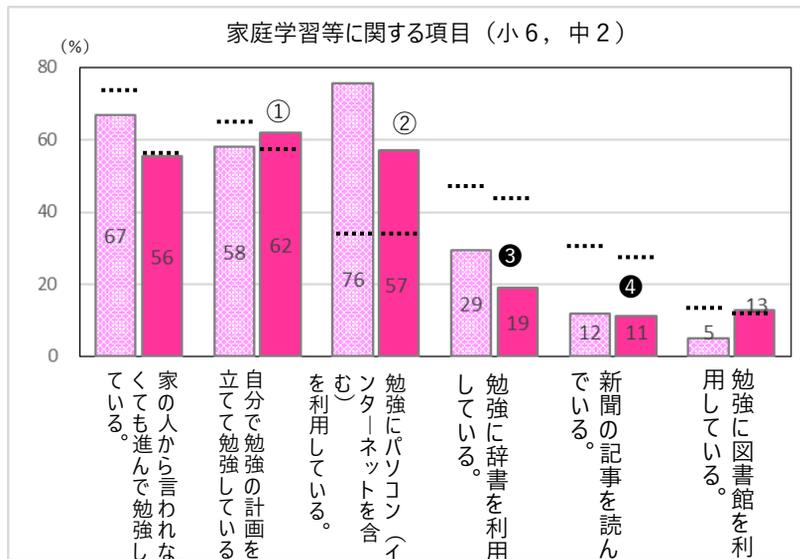


図4 令和6年度標準学力調査 質問紙調査の結果

【生活習慣等】

▲ (5) 朝食を食べずに登校する児童生徒が約1割見られました。

● (6⑦⑧) 「家族との夕食」や「家族との会話」「家庭内での手伝い」など、「家族との関係性」に関する項目が、全国水準とほぼ同等です。

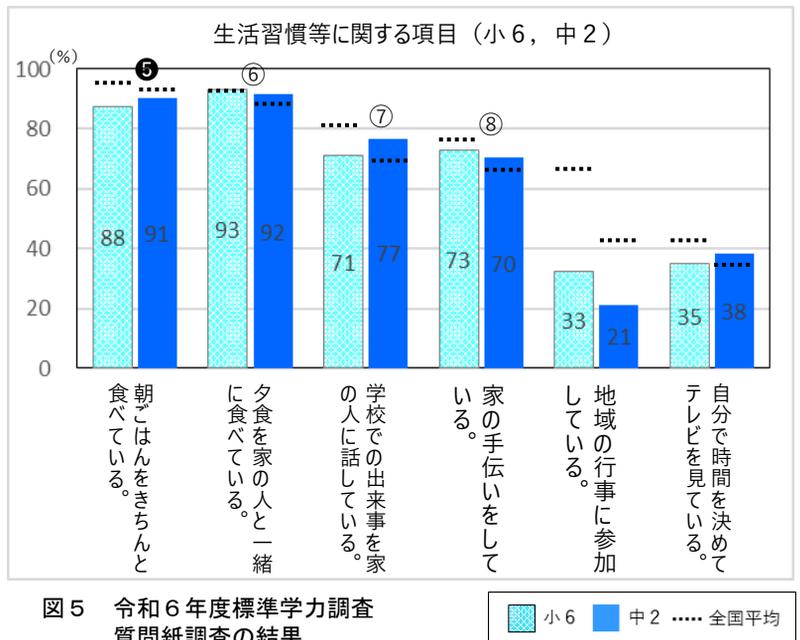


図5 令和6年度標準学力調査質問紙調査の結果

■ 小6 ■ 中2 全国平均

3 課題点のまとめ

(1) 小学校では、学年による差はあるものの、国語、算数ともに、目標値とほぼ同等で、全国平均に近づいています。

(2) 中学校では、国語は、目標値及び全国平均とほぼ同等であるのに対して、数学は、目標値及び全国平均を大きく下回っています。

(3) 児童生徒が家庭学習にかける時間は、小学校では、改善傾向にあります。中学校は、全国平均を大きく下回っています。児童生徒に宿題を課すだけにとどまらず、児童生徒が自ら計画を立て、主体的に学習に取り組むような手立ての工夫を、引き続き行っていく必要があります。

(4) 基本的な生活習慣（起床・就寝時刻、朝食）に関わる項目については、引き続き家庭との連携・協力のもと、望ましい学習習慣や生活習慣を確立する必要があります。

(5) 勉強にパソコンを利用している割合が、小・中ともに、全国水準を大きく上回っています。児童生徒個々に応じた個別最適な活用の仕方や活用場面などを工夫し効果的な活用を図るとともに、教員の活用スキルをさらに高めていく必要があります。

第3章 プランの目指すもの

1 角田市学力向上ゆめプランの目標

これまでの「角田市学力向上ゆめプラン」を継承しながら、今後は、身に付けた知識を活用したり、新たな課題に対して意欲的に取り組んだりする「持続可能な社会を実現する人づくり」を目指します。特に、以下の3つを目標として学校、家庭・地域、市教育委員会が連携・協働して取り組みます。

目標1

自分や他者の価値、貢献の意義について、前向きに捉える児童生徒の割合を全国平均値と同等にする。

※1：目標1は、角田市の児童生徒の実態から設定した目標です。

子供たちが、自立のかつ協働的な学習者となり、社会的な存在としての自覚を持つことによって「持続可能な社会を実現する人づくり」が可能になると考えます。

目標2

角田市標準学力調査において、各教科の「授業内容が分かる」と答える児童生徒の割合を全国平均値と同等にする。

※2：目標2は、全国学力量習状況調査（以下「全学調」と表記）と標準学力調査で同じ内容の調査項目があるため、実施人数の多い標準学力調査（小3～中2）を対象とします。そうすることで、教員が関係するより多くの児童生徒への指導法改善に生かすことができます。



目標3

角田市標準学力調査における各教科の平均正答率を全国平均値と同等にする。

※3：標準学力調査等による評価について

標準学力調査やワークテスト、定期考査などの紙媒体による学力の測定では、±5%程度の誤差が含まれます。また、標準学力調査やワークテスト、定期考査などの測定方法は、同一条件で行うため、個人の資質・能力を正確に反映するものではありません。特に、平均値や平均正答率で評価する場合、個人の資質・能力の実態を見取るとは困難です。

以上のことを踏まえ、各学校においては、評価方法（場面や材料等）を工夫し、個人の学力の評価が信憑性・妥当性のあるものになるよう努め、現時点で、どの子がどの程度の到達度にあるかを把握します。その結果を分析し、学年及び個々の経年変化を捉えるとともに、目標値に到達していない児童生徒への具体的な手立てを講じます。

A

角田市小・中学校での取組

1 「子供の学びを支援する5つの提言」^{※1}を受け、以下のことを実践します。

(1) 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、安心・安全に学べる環境をつくります。

- ①子供が充実した生活を送れるよう、安全で安心できる居場所づくりに努めます。
- ②子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援を行うことで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めます。

(2) 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てます。

- ①子供をほめるときは、子供が努力したことを具体的にほめるようにします。
- ②努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てます。

(3) 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように支援することで、学びに向かう力を育てます。

- ①子供に多様な学びに触れさせ、経験させることで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるよう支援します。
- ②子供自身が学びの計画を立て、自由な発想でICTを活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てます。

(4) 自分の考えを発表したり、交流したりする活動を充実させることで、深い学びにつなげます。

- ①自分の考えを発表したり、交流したりする活動を充実させ、子供の学びを豊かにします。
- ②習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援します。

(5) 家庭学習の質的向上を図るとともに、読書の時間を増やす働き掛けをします。

- ①一日の生活リズムを整えながら、家庭学習の時間が確保できるよう支援します。
- ②子供自身が課題を設定したり、ICTを効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働きかけます。
- ③家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図ります。

1 「子供の学びを支援する5つの提言」は、これまでの「学力向上に向けた5つの提言」の不易の部分に、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「ICTの活用」などの視点を加え、令和5年3月に、宮城県教育委員会より出されたものです。



B

家庭・地域での取組

1

保護者が手伝いや役割を与え、 家族や地域の一員としての自覚を促します

- (1) 手伝いや役割を果たすことで、「自己肯定感」「問題解決能力」「自立」「責任感」「コミュニケーション能力」などが育成されます。ほめられることでやりがいや勤労意欲が芽生え、失敗しても解決策が示されることで次の見通しを立てることができるようになります。
- (2) 今の子供たちは「直接体験」の経験が減っています。自然体験活動やボランティア経験をした人は、課題解決能力（分からないことはそのままにしないで調べる）や豊かな人間性（誰とでも協力してグループ活動ができる、相手の立場になって考えることができる）といった「生きる力」が備わります。

2

望ましい生活習慣を確立するために、 就寝時刻やゲームの時間について決めるようにします

- (1) 生活のリズムを整えることが学力向上につながると明らかになっています。「**はやね・はやおき・朝ごはん**」が生活リズムの大原則です。
 - ① 適度な睡眠時間を確保してください。

小学生の就寝時刻は、「成長ホルモン」が活発に分泌される**夜10時前**が望ましいです。また、**小学生は9～12時間程度、中学生は8～10時間程度**の睡眠が必要とされていることを踏まえて、お子様の就寝時刻を決めましょう。
- (2) 動画視聴やゲームの時間が1日1時間を超えると、子供の発達や学習時間への負の影響があることが明らかになっています。（学習時間が減る、視力が下がる、イライラしやすくなる、眠れない、疲れがとれない、やる気がでない等）

以下の点について、メディア・コントロールができるよう、各家庭での御協力をお願いします。

- ① 低・中学年は20時以降、高学年は21時以降の動画視聴を止めましょう。 中学生は小学校の取組を参考にして、各家庭で約束事を決めて取り組みましょう。
- ② 週に1回「ノーメディアデー」をつくりましょう。ゲームや学習に関係のない動画等の視聴時間を、学習や読書、家族団らんなどに使うことで、生活習慣を見直し、子供の計画性・忍耐力を養うことをねらいとした取組です。お子様と話し合っ、何曜日を「ノーメディアデー」にするか決めて取り組みましょう。できるところから始めて、少しずつ自分で時間をコントロールできる子供に育てていきましょう。

3

保護者がスマホにフィルタリングをかけたり、通信機能付きゲーム機の使用方法について指導したりして、子供たちを犯罪から守ります

- 子供たちを狙ったインターネット犯罪、不適切サイト、個人情報漏洩、ゲーム中毒、いじめなどの問題から子供たちを守りましょう。

4

保護者が家庭学習の内容を確認し、ほめたり認めたりします

- 子供が家庭学習をするには、家にいる人が「勉強を見ている」「勉強する時間を決めて守らせている」ことで効果が高くなり、「勉強しなさい」と言うのは効果が低いことが明らかになっています。

C

角田市教育委員会の取組

1

学力向上推進委員会※²を組織し、小・中学校が連携して授業改善をはじめとする方策に取り組みます

- (1) 学校と教育委員会の担当で組織する「**角田市学力向上推進委員会**」で、児童生徒の実態等についての情報共有を行い、具体的な学力向上に向けた方策に取り組みます。また、中学校区ごとの9年間を見通した取組について協議し、小・中の連携を図ります。
- (2) 宮城県教育委員会指定事業「**学力向上マネジメント支援事業**※³」「**共に学ぶ教育推進モデル事業**※⁴」に取り組んだ成果を各種研修や授業改善に生かします。

2

標準学力調査を実施します

- 小・中学生を対象とした、標準学力調査を実施し、本市児童生徒個々の学力・生活習慣等の現状と課題を明らかにした上で、授業改善や学び直しの実施など、対策を講じます。

※² 学力向上推進委員会とは、市内小中学校と教育委員会の担当者（約15名程度）で組織され、児童生徒の学力や実態等について情報交換を行い、具体的な学力向上に向けた方策を考えている組織。

※³ 学力向上マネジメント支援事業とは、各教育事務所に配置した学力向上マネジメント・アドバイザーの支援のもと、年2回の学力調査を軸としたPDCAサイクルの確立に向けて、市全体で学力向上に取り組む体制を構築するための事業。

※⁴ 共に学ぶ教育推進モデル事業とは、障害のある（特別な支援を要する）児童生徒が地域の学校に在籍し障害のない児童生徒と「共に学ぶ」場合に必要教育方法や校内体制の確立に向けた支援を推進する事業。

3

大学等と連携し、校内研修の講師を派遣するなどの支援を行います

- 宮城教育大学（H24.2に連携協力に関する覚書を締結）をはじめとする教育機関・民間企業から専門家を招へいし、専門的かつ先進的な指導を受けながら実践的な研究授業を行い、教員の授業力や指導力の向上を図ります。

4

ICT^{※5}の効果的な活用を図り、児童生徒一人ひとりに個別最適な学び・楽しい学びの実現を目指します

- (1) 児童生徒一人ひとりに配布したタブレット端末(Chromebook)を、授業だけでなく、家庭学習等にも活用します。
- (2) タブレットドリルの活用を図り、児童生徒が主体的に学び直しや個々に応じた学習ができるよう支援します。

5

学校図書館支援員・特別支援教育支援員を配置し、学校及び児童生徒をサポートします

- (1) 学校図書館支援員の配置（令和6年度は2名）により、学校図書館利用の促進や整備に努め、読書に親しむ環境を整えます。
- (2) 児童生徒一人ひとりのニーズに合った教育活動の支援のために、各学校に特別支援教育支援員（令和6年度は31名）を配置し、個に応じた指導の充実に努めます。

6

積極的に情報を公表し、学校・家庭・地域の連携を図ります

- 生活習慣や学習習慣等の課題について、必要な情報を積極的に公表し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら改善に向かうことができるよう努めます。

7

適応指導教室を設置し、様々な「学び」の形を支援します

- 平成30年6月より、適応指導教室（名称：Cocoはうすかくだ）を開設し、子供のニーズに合ったサポートを行い、児童・生徒の学びを支援しています。

⁵ ICTとは、Information and Communications Technology（情報通信技術）の略称。

令和6年度角田市学力向上推進委員

委員長	角田市立横倉小学校	校長 渡邊 隆仁		
副委員長	角田市立金津小学校	教頭 大宮 拓也		
委員	角田市立角田小学校	主幹教諭 船迫 淳一	角田市立角田中学校	主幹教諭 滝深 潔
	角田市立北郷小学校	教諭 吉村 愛	角田市立北角田中学校	教諭 澁谷 正生
	角田市立角田小学校	教諭 斎藤 優芽	角田市立桜小学校	教諭 横山 頼義
	角田市立北郷小学校	教諭 小林 佳之	角田市立横倉小学校	教諭 小松 美穂
	角田市立金津小学校	教諭 菅野 明子	角田市立角田中学校	教諭 鈴木 瑞恵
	角田市立北角田中学校	教諭 吉津 朋子		
	事務局	角田市教育委員会 教育総務課	主幹	齋藤 祐一
角田市教育委員会 教育総務課		指導係主査	米山 馨	
角田市教育委員会 教育総務課		指導係主事	齋 めぐみ	



角田市学力向上ゆめプラン

発行年月 令和4年3月
(令和7年3月一部修正)
編集発行 角田市学力向上推進委員会
所在地 角田市角田字大坊41
電話 0224-63-0130